



営農振興課 渉外係  
営農経済部 渡邊 敦

\* 今月号は私が担当しました。

## ブロッコリーのべと病について

作物を栽培するうえで問題となる病害虫の発生。そこで今回は、昨年のこの時期に多発した「べと病」の対策をご紹介します。

### 特性

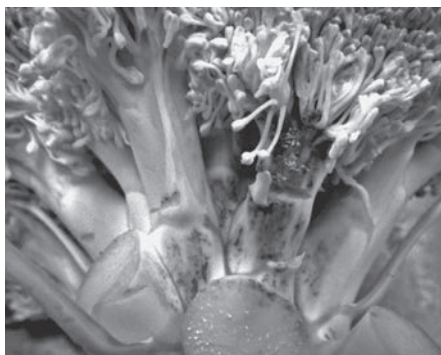
糸状菌（カビ）が原因の病気で、冷涼多湿（20℃前後の多湿条件）の時に発病しやすいと言われています。胞子を形成し、風により容易に飛散するため、感染拡大が起こり、葉や花蕾内部などに発病します。

### 症状

葉：葉脈間に、病斑部と健全部の境界が不明瞭な黄色から黄緑色、

あるいは淡褐色の病斑を形成します。葉の裏には、白色で霜状の胞子が多量に形成されます。

**花蕾**：形状が凸凹になったり、内部の組織が褐変（組織内べと）したりします。初期の軽微な発生の場合は、外観から発病が分かりにくく、出荷してしまうことも!!



### 対策

#### 予防的に薬剤散布を行います。

- 育苗期に発生すると感染拡大が早いため、予防的に薬剤を散布し、本圃への菌の持ち込みを防ぎましょう。
- 出蕾初期の感染が、組織内べとの発生を助長してしまうため、定植後、本圃で出蕾前から予防的に薬剤散布を行ってください。
- 曇天や降雨が続くと、べと病が発生しやすいため、要注意です。
- 下葉から発病するので、苗場や圃場を観察し、発病初期の対策を心がけましょう。
- 耐性菌の出現を防ぐために、作用機構（F R A C）が異なる複数の薬剤をローテーション散布しましょう。

#### 発病しにくい圃場を作ります。

● 堆肥や窒素肥料が多く入っている多肥条件の圃場では、組織内

べとの発生が起こりやすいため、肥培設計等の管理に注意しましょう。

● 通気性や排水性の悪い圃場は、多湿となり、べと病菌の感染と胞子形成を助長させてしまいます。密植を避け、通気性を確保し、サブソイラー等も使用して排水性の向上に努めましょう。

● べと病が発生した圃場では、残さが次作への伝染源となりうるため、発病株や残さは圃場の外へ持ち出し、処分しましょう。

べと病以外にも、様々な病害が多発しています。圃場巡回などをこまめに行い、害虫による食害や、雨風等による傷口からの病気感染を抑えるための予防・防除を行い、管理をしましょう。

